

ふしぎな世界を 体験しよう

ノーマン・ロクック教授、林武文教授の
ふしぎなサイエンスアート



2017年 **7/17** (月) ⇨ **9/30** (土)

- 開館時間：10時～16時
- 休館日：日曜、祝日、および8月11日～20・26日、
9月2・9・16日
(ただし、8月6日、9月23日は開館)
- 場所：関西大学博物館特別展示室
(関西大学千里山キャンパス 簡文館内)
- 入館料：無料

関西大学博物館

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

TEL: 06-6368-1171 / FAX: 06-6388-9928

E-Mail: hakubutsukan@ml.kandai.jp

HP: <http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/>

ノーマン D. クック教授、林武文教授のふしぎなサイエンスアート

私たちの目は正確に対象を捉えているように思われますが、実は目から入った視覚情報が脳に伝達される過程で歪められ、びっくりするような見え方をしてしまう『錯視現象』を起こすことがあります。そのような人間の目の錯覚を利用する3Dイリュージョン（逆遠近錯視）は、「立体的にみえる絵画」や「みる角度によって印象が変わる作品」など、平面（二次元）のものを立体（三次元）的に描き表す不思議で楽しめる新しいアートです。

今回の展覧会では、長年にわたるクック教授、林教授の錯視に関する研究を基に作成された3Dイリュージョンを展示します。動くはずのない魚がぐにゃぐにゃ動いたり、絵として描いたビルが動いて見えたり、3次元CGにより様々な画像を切り替えて表示できる3Dプロジェクションマッピングなど、展示を通して体験する不思議な感覚をお楽しみください。



ノーマン D.クック
(関西大学総合情報学部教授)

専門は神経心理学、認知心理学、実験心理学。長年にわたって人間の知覚や認知に関する研究を行い、イギリス、スイス、日本で得られた実験結果に基づいて、人間における特有の知覚才能は「3体情報処理」によるものであるという結論を導いた。科学的理論に基づいた他には例を見ない3Dイリュージョンの製作者。主な著書として、Harmony, Perspective and Triadic Cognition(Cambridge University Press, 2011) などがある。

科学的理論に基づいた他には例を見ない3Dイリュージョンの製作者。主な著書として、Harmony, Perspective and Triadic Cognition(Cambridge University Press, 2011) などがある。



林武文
(関西大学総合情報学部教授)

博士(工学)。情報の可視化とヒューマンインタフェースに関する研究に従事。視覚を中心とした人間の情報処理メカニズムを解明し、ヒューマンインタフェースにおける情報の提示方法を明らかにすることを目的に、視覚情報処理メカニズムに関する研究、物理学・工学分野における可視化システムの研究、地域の魅力を発信する文化資本コンテンツの研究などを行っている。主な著書として、林武文、吉田英代『Java3Dによる3次元CGプログラミング』コロナ社、2007年などがある。

主な著書として、林武文、吉田英代『Java3Dによる3次元CGプログラミング』コロナ社、2007年などがある。



●関連行事

関西大学博物館 キッズミュージアム 2017

8/2(水)、8/3(木) 10:00～16:00(開場・受付/9:50～)

ところ：関西大学博物館「キッズミュージアム」会場 参加費無料

3Dイリュージョン折り紙教室

[協力:総合情報学部クックゼミ]

クック教授のふしぎな世界を折り紙で体験してみよう！ 大阪のビルが動くんだよ！

●10:00～、11:00～、13:00～、14:00～の4回実施

●各回12人先着順受付(小学生以上対象)

※必ず大人(高校生以上)とペアで参加してください。

※お申込みについては関西大学HP、または「関西大学博物館 キッズミュージアム 2017」のチラシをご覧ください。



関西大学博物館

博物館へのアクセス

- 阪急電鉄梅田(大阪)駅から阪急千里線北千里行き乗車。十三・南方・淡路を経て「関大前」下車(約20分)。
- 地下鉄堺筋線(阪急電車千里線相互乗り入れ)天下茶屋駅方面から日本橋・北浜・天神橋筋六丁目・淡路を経て「関大前」下車(約30分)。関大前駅から徒歩約10分。